

園だより 10月

おのこの部分は分に応じて働いて体を成長させ、
自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

エフェソの信徒への手紙 4章 16節

暑い暑いで過ごした9月が終わろうとしています。夏休み中から始まった修繕工事もほぼ終わりました。(今月あと少し行われますが、子どもたちに支障が無いようにいたします。) 工事の関係で園庭に出られない日もあった9月でしたが、保育者たちの環境の工夫と子どもたちの豊かなアイディアで、なんだか特別な一週間になっていました。異年齢の子どもたちがより身近で遊んでいるからこそ、年長児が作っている製作物の魅力に気づき、興味津々の年中・少児。同じように作りたいけど作れない、何とも言えないもどかしい様子でたたく異年齢の子どもたちに年長児が自ら声をかけ、作ってあげたり、作れる友だちに頼んであげたり。子どもたちの交わりの中で支え援助し合う姿がとても自然に行われていました。また、そこからの遊びの継続、限られた広さで過ごしていたからこそ新たに出会った子どもたちも多くいました。保育者たちが安全と不自由さへの配慮にどれほど神経を使って過ごしたかは言うまでもありませんが、その守りの中そのような環境であったからこそその実りある保育が展開されたことは恵みでした。それでも、園庭が元に戻り通常の生活が戻ってくると、待ってましたとばかりに園庭の其処ここで遊び込む子どもたちの姿に、当たり前のことですがやっぱり江東YMCA幼稚園には思いきり遊べる園庭が大事!と改めて実感したときともなりました。今まで、紺パンツのお尻が擦り切れてお家の方泣かせだった滑り台もつるつるできれいな水色になりました。もう少しメンテナンスが必要とのことですが近日オープンは間違いありません。先日の避難訓練で年中組数名が避難用として滑りました。ちょっとびっくりのスピード感のようです。お尻当てが付いた紺パンツが幼稚園から消える日が来るのでしょうか。ちょっぴり寂しい気もします。

少しずつ秋を感じられる10月になることでしょう。きれいになった幼稚園で子どもたちの想いが溢れ、思いが深まる毎日を豊かに過ごしたいと願います。そのためには皆で健康に過ごすことが大前提です。感染症は何時流行するか分かりません。感染対策は自分のために みんなのために 変わることなく気を付け過ごして参りましょう。様々なご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子

